

横浜市における自殺の現状(平成19年～23年)

－神奈川県警提供のデータの解析－

日本の自殺者数は、平成10年に一挙に8,000人余り増加して3万人を越え、その後も高い水準が続いています。平成18年10月、国を挙げて自殺対策を総合的に推進することにより、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等に対する支援の充実を図るため、「自殺対策基本法」が施行されました。また、この法に基づき、平成19年6月には、政府が推進すべき自殺対策の指針として「自殺総合対策大綱」が策定され、平成24年8月には、見直しが行われました。

横浜市でも自殺対策に係る市内の密接な連携と協力により、自殺対策の推進を図るため、平成19年9月から横浜市市内自殺対策連絡会議が設置されています。

感染症・疫学情報課では、横浜市こころの健康相談センターを通じて神奈川県警より、各年の「横浜市における自殺者」のデータの提供を受けています。今回、平成19年～23年のデータについて解析をしたので、報告します。

なお、その他の解析については、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/>に掲載しています。

1 総自殺者数および性別自殺者数(図1)

総自殺者数の最大は746人(22年)、最小は663人(21年)、平均は703人、標準偏差は31人でした。平均を100%とすると、範囲は94%～106%でした。性別にみると、男性の最大は529人(22年)、最小は454人(19年)、平均は480人、標準偏差は26人でした。平均を100%とすると、範囲は95%～110%でした。女性の最大は245人(20年)、最小は188人(21年)、平均は223人、標準偏差は21人でした。平均を100%とすると、範囲は84%～110%でした。

また、総自殺者数および性別自殺者数の推移を回帰検定したところ、統計学的に有意な差は無く、増加および減少の動向は認められませんでした。

各年とも男性の方が女性より自殺者数が多く、男女比は5年間の平均で2.2、範囲は1.9(20年)～2.5(21年)でした。

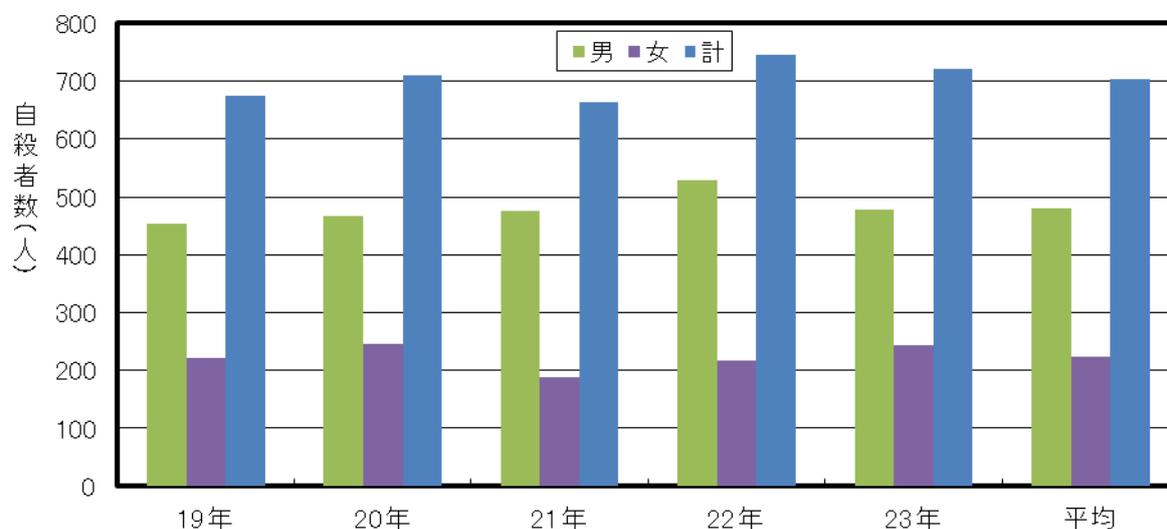


図1 総自殺者数および性別自殺者数の推移

2 年齢階級別自殺者数(図2-1、2-2)

年齢階級別に自殺者数を見ると、男性では、19年～21年は50歳代(113人、105人、102人)が最も多く、一峰性を示しました。しかし、男性の自殺者が最も多かった22年では、40歳代(117人)が最も多く、次いで60歳代(104人)にもピークが見られ、二峰性を示しました。そして、23年では40歳代(107人)が最も多いながらも、60歳代のピークは下がり、自殺者数も減少し、再び一峰性に戻りました。一峰性を示した年の平均自殺者数は468人(454人～478人)であるのに対し、二峰性を示した22年では529人で、一峰性を示した年の平均の13%増となっていました。

女性では、19年は60歳代(40人)が最も多く、次いで50歳代(39人)にもほぼ同じ大きさのピークが見られました。この二つのピークを合わせて一つのピークとすると、30歳代(36人)にもピークを持つ二峰性と捉えることができます。20年、22年、23年は、19年と同様に、60歳代(39人、44人、49人)と30歳代(47人、39人、44人)にピークを持つ二峰性(第1ピークと第2ピークの順序は年によって異なります)を示しました。しかし、女性の自殺者が最も少なかった21年では、30歳代(39人)だけにピークを持つ一峰性を示しました。二峰性を示した年の平均自殺者数は232人(217人～245人)であるのに対し、一峰性を示した21年では188人で、二峰性を示した年の平均の19%減となっていました。

二峰性の年の方が一峰性の年よりも自殺者が多い傾向は、男女ともに見られました。

なお、各年とも10歳未満の自殺が無かったため、図では省略しています。

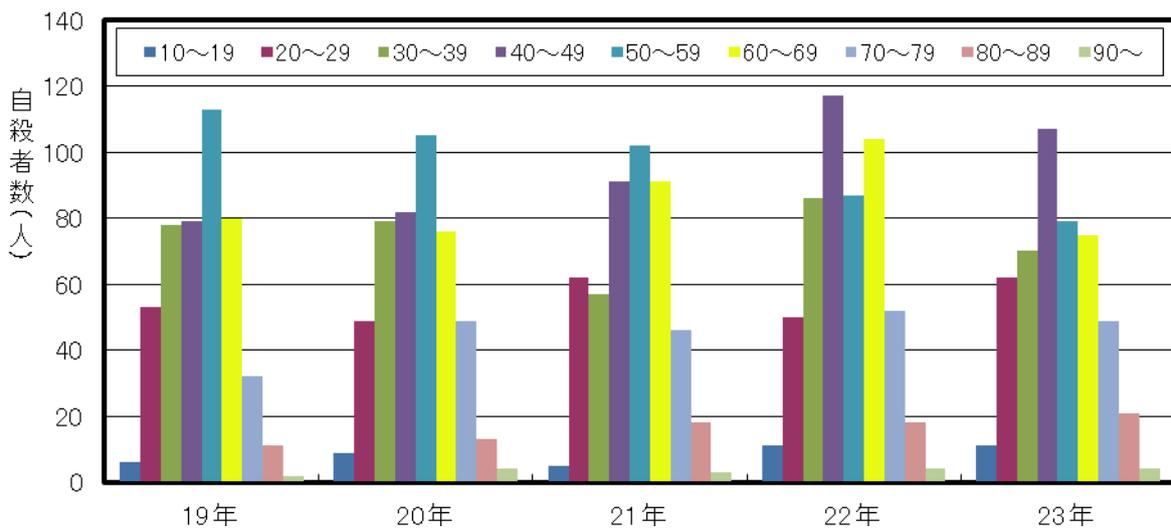


図2-1 年齢階級別自殺者数(男性)

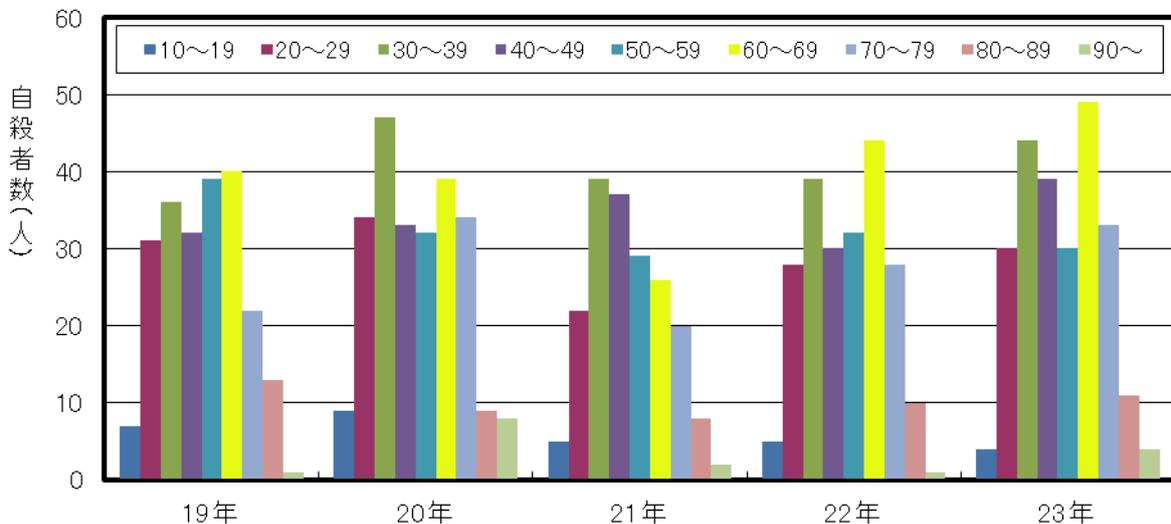


図2-2 年齢階級別自殺者数(女性)

3 月別自殺者数

月別に自殺者数をみると、男女ともに年によりピークを示す月が様々でした。5年間の平均を見ても顕著な傾向は見られませんでした。

4 曜日別自殺者数

曜日別に自殺者数をみると、男女ともに年によりピークを示す曜日が様々でした。5年間の平均から、男性では月曜日(76人)にやや多く、日曜日(53人)と土曜日(51人)にやや少ない傾向が見られました。女性では特に多い曜日は無く、土曜日(27人)にやや少ない傾向が見られました。

5 時間別自殺者数

時間別に自殺者数をみると、男女ともに年によりピークを示す時間が様々でした。5年間の平均から、男性では特に多い時間帯は無く、19時台～23時台(8人、10人、9人、10人、9人)でやや少ない傾向が見られました。女性では0時台(9人)と10時台～13時台(9人、8人、10人、8人)と16時台～18時台(8人、8人、8人)にやや多い傾向が見られ、特に少ない時間帯ありませんでした。

6 自殺の場所

自殺した場所を20の項目に分類し^{*1}、場所別に自殺者数をみると、男女ともに「自宅」が最も多く、5年間の平均から、男性では57%、女性では74%を占めていました。次いで、男性では「公園」(7%)、「高層ビル」(5%)、女性では「高層ビル」(7%)、「鉄道線路」(3%)でした。

^{*1}自殺の場所: 自宅、下宿・寮、学校、勤め先、病院、福祉施設、ホテル・旅館、デパート、高層ビル、駅構内、鉄道線路、乗物、路上、公園、社寺境内、田畑、海・湖・河川、池・沼、山、その他

7 自殺の手段

自殺した手段を15の項目に分類し^{*2}、手段別に自殺者数をみると、男女ともに「首つり」が最も多く、5年間の平均から、男性では66%、女性では59%でした。次いで、男性では「飛降り」(11%)、「練炭等」(7%)、女性では「飛降り」(17%)、「服毒」(4%)でした。

^{*2}自殺の手段: 首つり、有機溶剤吸引、服毒、練炭等、排ガス、その他のガス、感電、焼身、爆発物、銃器、刃物、入水、飛降り、飛込み、その他

単年度ごとの詳細な解析は、衛生研究所のホームページに掲載しています。そちらもご利用ください。

URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/>

なお、横浜市では、精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図るための専門機関として、「こころの健康相談センター」を設置しています。

URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kokoronosodan-center/>

Tel: 045-671-4455